

トライやる・ウィークと史料館

——本庄中学校の生徒を受け入れて——

史料館研究員 水口千里

二〇一〇年度トライやる・ウィークは、史料館では六月三日、四日の二日間本庄中学校の二年生を受け入れた。今回体験したのは、学校の作業学習で学んでいる陶芸の作品づくりに一生懸命取り組んでいる池田伊織さんと、サッカー部に所属してリフティングが得意だという岡村拓馬さんの二人である。

一日目は、博物館での実務の内容を理解し、体験することに重点をおいた。まず資料の収集と整理に関するDVDを見て、博物館での資料の取り扱い方法などを学んだ。理解を深めたあと、史料館の展示を見ながらどんな展示物があるのか概要を知り、興味がある資料を何点か撮影した。その中から資料を選び資料整理の基本である資料登録カードの作成に着手した。池田くんは水がめ、岡村くんは紙幣とそれぞれ好きな資料を選んで撮影し、資料カードにプリントアウトした写真を貼り、資料情報を記入して完成させた。また事務処理の体験として、当館が毎年発行している『史料館だより』（本誌）を関連機関に発送するために、三つ折りにし、封筒に宛名シールを貼って封筒詰め作業をおこなった。慣れない作業だったせい



▲池田伊織くん



▼岡村拓馬くん

か、『史料館だより』を三つ折りにするのはかなり苦労したようだった。

二日目は、季節の展示コーナーの五月人形を収蔵庫に収めたあと、『夏の風物詩』というタイトルで展示プランを考え、実際の展示を体験した。最初からやり方などを示さず、使用資料だけを渡して自由な発想で展示してもらった。展示資料にはガラス製のハエ取り器や夏用のおひつなど初めて見る道具もあるので、それらについては使用方法を学習し理解した上で、二人で話し合い協力して展示をするという作業に熱心に取り組んでくれた。感想文によると、この展示がもっとも興味深い作業だったようである。そのあと、小学生のための展示用として、かまど、流し、水がめ、ちゃぶ台、火鉢などが描かれているむかしの道具のイラストを渡し、彩色をして道具についての説明文を小学生にもわかりやすく書いてもらった。ひとつひとつの仕事をとてども丁寧におこなっているのがこちらにもよく伝わってきた。

わずか二日間の体験ではあるが、二人にとって地域の歴史に関心が持てる機会となり、またこの一文が二人が頑張った活動の記録のひとつになればと館員一同願っている。



上 季節展示『夏の風物詩』
下 資料登録カードの作成